

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-234548

(P2008-234548A)

(43) 公開日 平成20年10月2日(2008.10.2)

(51) Int.Cl.

G06F 3/12 (2006.01)
B41J 29/38 (2006.01)
B41J 21/00 (2006.01)

F 1

G06F 3/12
B41J 29/38
B41J 21/00

L
Z
Z

テーマコード(参考)

2C061
2C187
5B021

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号
(22) 出願日

特願2007-76403 (P2007-76403)
平成19年3月23日 (2007.3.23)

(71) 出願人 000001007
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(74) 代理人 100087446
弁理士 川久保 新一
(72) 発明者 倉田 康雄
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ
ヤノン株式会社内
F ターム(参考) 2C061 HJ06 HK02 HK07 HK19
2C187 BF19 BF41 BH05 BH11 BH27
DB09 DB30 DC06 GC00
5B021 AA01 LB07 LG00

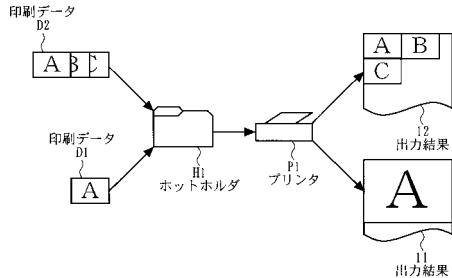
(54) 【発明の名称】印刷制御装置及びその制御方法

(57) 【要約】

【課題】ホットホルダに保存した印刷データのページ数に応じて、出力レイアウトを切り替えることができ、異なるレイアウトの印刷を簡易に行うことができる印刷制御装置を提供することを目的とする。

【解決手段】印刷データを保存するための記憶領域であるホットホルダに印刷データを保存し、上記ホットホルダへの印刷データの保存を一定時間毎に監視し、上記ホットホルダに印刷データが保存されたことを検知すると、上記印刷データに含まれている印刷ページ数を検知し、検知した印刷ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、検知した印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成し、印刷データを印刷出力のジョブとして登録する。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

印刷データを保存するための記憶領域であるホットホルダに印刷データを保存するデータ保存手段と；

上記ホットホルダへの印刷データの保存を一定時間毎に監視する監視手段と；

上記ホットホルダに印刷データが保存されたことを、上記監視手段が検知すると、上記印刷データに含まれている印刷ページ数を検知するページ数検知手段と；

上記ページ数検知手段が検知した印刷ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、上記ページ数検知手段が検知した印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成するレイアウト生成手段と；

上記印刷データを印刷出力のジョブとして登録するジョブ登録手段と；
を有することを特徴とする印刷制御装置。

【請求項 2】

請求項1において、

上記レイアウト生成手段は、上記印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページの並べ方を、ユーザが任意に変更できる他の設定アプリケーションを起動する手段であることを特徴とする印刷制御装置。

【請求項 3】

請求項1において、

複数又は1つの印刷データを格納するホルダを上記ホットホルダに保存する場合、

上記ページ数検知手段は、印刷データが格納されているホルダ内に存在する印刷データの総ページ数を検知する手段であり、

上記レイアウト生成手段は、印刷データを格納したホルダ内に存在する印刷データの総ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、上記総ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成する手段であることを特徴とする印刷制御装置。

【請求項 4】

印刷データを保存するための記憶領域であるホットホルダに印刷データを保存するデータ保存工程と；

上記ホットホルダへの印刷データの保存を一定時間毎に監視する監視工程と；

上記ホットホルダに印刷データが保存されたことを、上記監視工程で検知すると、上記印刷データに含まれている印刷ページ数を検知し、記憶装置に記憶するページ数検知工程と；

上記ページ数検知工程で検知された印刷ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、上記ページ数検知工程で検知された印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成し、記憶装置に記憶するレイアウト生成工程と；

上記印刷データを印刷出力のジョブとして登録するジョブ登録工程と；
を有することを特徴とする印刷制御装置の制御方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、印刷物の出力を制御する印刷制御装置に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、PC上で作成された電子データを、一定の印刷設定で、簡単に印刷するための方法として、ホットホルダを用いることが知られている（たとえば、特許文献1参照）。そして、ホットホルダに対して監視プログラムを起動し、一定時間毎に、ホットホルダを監視する。ホットホルダに印刷データが入稿されると、その印刷データをホットホルダに予め設定しておいた印刷設定に従って、自動的にジョブ登録する。

10

20

30

40

50

【0003】

これによって、ユーザは、印刷したい電子データを、ホットホルダに入れるだけで、面倒な印刷設定を行う必要がなく、簡単に印刷することができる。

【特許文献1】特開2000-118095号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかし、上記従来例において、複数ページからなる印刷データを、ホットホルダに入稿しても、1ページからなる印刷データを、ホットホルダに入稿しても、出力されるレイアウト方法はただ1つであり、自由度が低いという問題がある。10

【0005】

また、上記従来例では、印刷ページ数に関わらず、出力レイアウトがただ1つである。したがって、ページ数によって異なる出力レイアウトで印刷したい場合、出力レイアウト毎に、ホットホルダを用意しなければならず、ホットホルダが増えることによって、管理が煩雑になるという問題がある。

【0006】

本発明は、ホットホルダに保存した印刷データのページ数に応じて、出力レイアウトを切り替えることができ、異なるレイアウトの印刷を簡易に行うことができる印刷制御装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本発明は、印刷データを保存するための記憶領域であるホットホルダに印刷データを保存するデータ保存手段と、上記ホットホルダへの印刷データの保存を一定時間毎に監視する監視手段とを有する。また、本発明は、上記ホットホルダに印刷データが保存されたことを、上記監視手段が検知すると、上記印刷データに含まれている印刷ページ数を検知するページ数検知手段と、レイアウト生成手段とを有する。このレイアウト生成手段は、ページ数検知手段が検知した印刷ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、ページ数検知手段が検知した印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成する。また、本発明は、上記印刷データを印刷出力のジョブとして登録するジョブ登録手段を有する。30

【発明の効果】**【0008】**

本発明によれば、ホットホルダに保存した印刷データのページ数に応じて、出力レイアウトを切り替えるので、異なるレイアウトの印刷を簡易に行うことができ、ユーザが印刷を行う場合における利便性が向上するという効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】**【0009】**

発明を実施するための最良の形態は、次の実施例である。

【実施例1】**【0010】**

図1は、本発明の実施例1である印刷制御装置100を用いて、印刷する様子を示す図である。40

【0011】

印刷データD1は、1ページからなる印刷データである。印刷データD2は、2ページ以上からなる印刷データである。プリンタP1は、ホットホルダH1に印刷データが保存された際にジョブ登録を受け付ける。出力結果11は、1ページからなる印刷データD1をホットホルダH1に保存した際の出力結果である。出力結果12は、2ページ以上からなる印刷データD2をホットホルダH1に保存した際の出力結果である。

【0012】

図2は、本発明の実施例1である印刷制御装置100を有するPCの内部構造と外部と

10

20

30

40

50

の接続とを示すブロック図である。

【0013】

このPCは、CPUを備えた中央処理装置21と、RAMなどの記憶装置22と、マウスやキーボード等の入力装置23と、CRTやLCDなどの表示装置24と、ハードディスクや光磁気ディスク等の補助記憶装置25とを有する。そして、上記PCを構成する装置21～25のそれぞれは、内部バスラインIBによって接続されている。

【0014】

記憶装置22は、後述する監視プログラムやページ数検知プログラムや出力レイアウト生成プログラムやジョブ登録プログラムを、一時的に記憶し、中央処理装置21から適宜呼び出される。

10

【0015】

入力装置23は、ホットホルダH1の作成や、ホットホルダH1に対しての印刷データ保存や、ユーザからの各種入力を行う。

【0016】

補助記憶装置25は、印刷データを保存する装置である。

【0017】

また、PCの内部バスラインIBは、外部バスラインBLを介して、プリンタP1と接続され、PCからプリンタP1に対して、ジョブ登録を行うことができる。

【0018】

つまり、記憶装置22は、印刷データを保存するための記憶領域であるホットホルダに印刷データを保存するデータ保存手段の例である。中央処理装置21は、ホットホルダへの印刷データの保存を一定時間毎に監視する監視手段の例であり、ホットホルダに印刷データが保存されたことを、監視手段が検知すると、印刷データに含まれている印刷ページ数を検知するページ数検知手段の例である。また、中央処理装置21は、レイアウト生成手段の例である。このレイアウト生成手段は、ページ数検知手段が検知した印刷ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、ページ数検知手段が検知した印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成する。記憶装置22は、印刷データを印刷出力のジョブとして登録するジョブ登録手段の例である。

20

【0019】

次に、印刷制御装置100の動作について説明する。

30

【0020】

図3は、印刷制御装置100の動作を司る印刷制御プログラムの処理を示すフローチャートである。

【0021】

まず、ここでは、ホットホルダH1がPC上に作成されているとする。

【0022】

印刷制御プログラムを起動すると、監視プログラムが起動される。そして、監視プログラムは、ユーザが予め作成したホットホルダH1に、印刷データが保存されているかどうかを、一定時間毎に監視する(S1)。ここで、監視プログラムがホットホルダH1を監視する間隔は、ユーザが任意に設定、変更できるようにしてもよい。

40

【0023】

次に、ホットホルダH1に印刷データを、ユーザが保存し、監視プログラムがそれを検知すると、印刷制御プログラムは、ページ数検知プログラムを起動する。ページ数検知プログラムは、印刷データのページ数を調べ、その情報を、印刷制御プログラムに返す(S2)。

【0024】

印刷制御プログラムは、印刷データのページ数を受け取ると、次に、印刷データに含まれている印刷ページ数を渡し、出力レイアウト生成プログラムを起動する。

【0025】

50

出力レイアウト生成プログラムは、まず、印刷ページ数によって、処理を切り替える（S3）。

【0026】

印刷ページ数が1ページであれば、プリンタP1に装備されている出力用紙幅に合わせて、印刷データが出力用紙幅一杯に印刷されるレイアウトを生成する（S4）。

【0027】

また、ページ数が2ページ以上であれば、プリンタP1に装備されている出力用紙幅に収まるように、印刷データの各ページを1ページ目から順に並べた出力レイアウトを生成する（S5）。

【0028】

出力レイアウトが生成されると、印刷制御プログラムは、印刷出力のジョブを登録するジョブ登録プログラムを起動する。ジョブ登録プログラムは、出力レイアウト生成プログラムによって生成された出力レイアウトで、プリンタP1に、印刷データのジョブを登録する（S6）。

【0029】

ここで、たとえば、印刷データとして、1枚の画像データをホットホルダH1に保存したとする（印刷データD1に相当）。この場合、印刷データは、1ページであるので、上記フローチャートに従って処理すると、プリンタP1から出力用紙幅一杯にレイアウトされた出力結果11が得られる。

【0030】

また、たとえば、印刷データとして、A4サイズの3ページからなる文書（印刷データD2に相当）を、ホットホルダH1に保存したとする。この場合、印刷データは、2ページ以上であるので、上記フローチャートに従って処理を行った後に、プリンタP1から、文書の各ページを並べたレイアウトの出力結果12が得られる。

【0031】

さらに、出力レイアウト生成プログラムは、印刷データが2ページ以上である場合、S5において、各ページの並べ方を編集することが可能な他のアプリケーションを起動し、ユーザの所望する並べ方に編集するようにしてもよい。

【0032】

図4は、印刷制御装置100において複数の印刷データを格納しているホルダHD1をホットホルダH1に保存した場合における印刷の様子を示す図である。

【0033】

S1で検知した印刷データがホルダHD1であれば、S2でページ数を調べる際に、ホルダHD1内に存在する印刷データの総ページ数を調べ、S3で、総ページ数によって処理を切り替えるようにしてもよい。

【0034】

これは、たとえば、5枚の画像データを格納したホルダHD1を、ホットホルダH1に保存したとすると、S1で、ホットホルダH1にホルダHD1が保存されていることを検知し、S2で、ホルダHD1に格納されている印刷データの総ページ数を調べる。そして、印刷データが5ページであると検知されるので、S5の処理に移り、5枚の画像データを、5ページからなる印刷データとして、出力レイアウトを生成し、ジョブ登録を行う（S6）。そして、5枚の画像データを並べたレイアウトの出力結果13が得られる。

【0035】

上記実施例1において、上記レイアウト生成手段は、上記印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページの並べ方を、ユーザが任意に変更できる他の設定アプリケーションを起動する手段である。また、複数又は1つの印刷データを格納するホルダを上記ホットホルダに保存する場合、上記ページ数検知手段は、印刷データが格納されているホルダ内に存在する印刷データの総ページ数を検知する手段である。上記レイアウト生成手段は、印刷データを格納したホルダ内に存在する印刷データの総ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、上記総ページ数が2ページ以上であれば、

10

20

30

40

50

各ページを並べた出力レイアウトを生成する手段である。

【0036】

また、上記実施例を方法の発明として把握することができる。つまり、上記実施例1は、印刷データを保存するための記憶領域であるホットホルダに印刷データを保存するデータ保存工程と、上記ホットホルダへの印刷データの保存を一定時間毎に監視する監視工程とを有する。また、上記実施例1は、上記ホットホルダに印刷データが保存されたことを、上記監視工程で検知すると、上記印刷データに含まれている印刷ページ数を検知し、記憶装置に記憶するページ数検知工程と、レイアウト生成工程とを有する。レイアウト生成工程は、ページ数検知工程で検知された印刷ページ数が1ページであれば、出力用紙幅に合わせた出力レイアウトを生成し、記憶装置に記憶する工程である。また、レイアウト生成工程は、ページ数検知工程で検知された印刷ページ数が2ページ以上であれば、各ページを並べた出力レイアウトを生成し、記憶装置に記憶する工程である。さらに、上記実施例1は、上記印刷データを印刷出力のジョブとして登録するジョブ登録工程を有する。

10

【図面の簡単な説明】

【0037】

【図1】本発明の実施例1である印刷制御装置100を用いて、印刷する様子を示す図である。

【図2】本発明の実施例1である印刷制御装置100を有するPCの内部構造と外部との接続とを示すブロック図である。

20

【図3】印刷制御装置100の動作を司る印刷制御プログラムの処理を示すフローチャートである。

【図4】印刷制御装置100において複数の印刷データを格納しているホルダHD1を、ホットホルダH1に保存した場合における印刷の様子を示す図である。

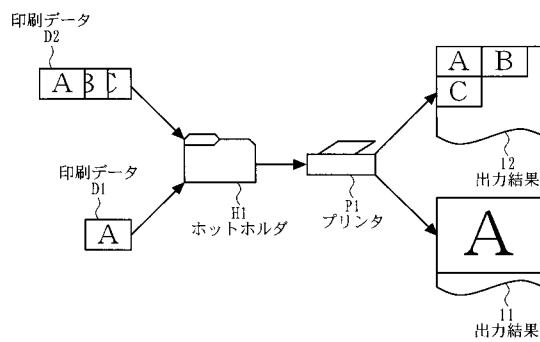
【符号の説明】

【0038】

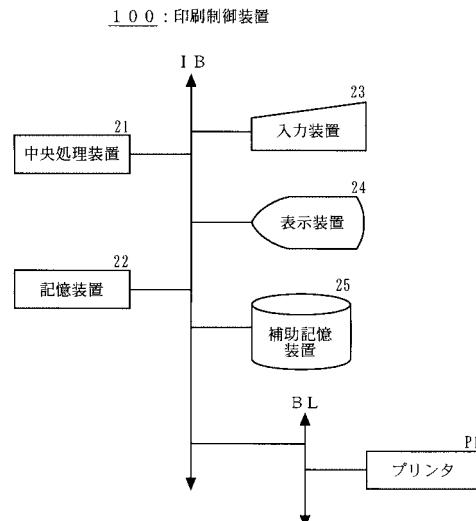
- D1 ... 1ページからなる印刷データ、
- D2 ... 2ページ以上からなる印刷データ、
- H1 ... ホットホルダ、
- P1 ... プリンタ、
- 11、12、13 ... 出力結果、
- 21 ... 中央処理装置、
- 22 ... 記憶装置、
- 23 ... 入力装置、
- 24 ... 表示装置、
- 25 ... 補助記憶装置、
- HD1 ... 複数の印刷データを格納しているホルダ。

30

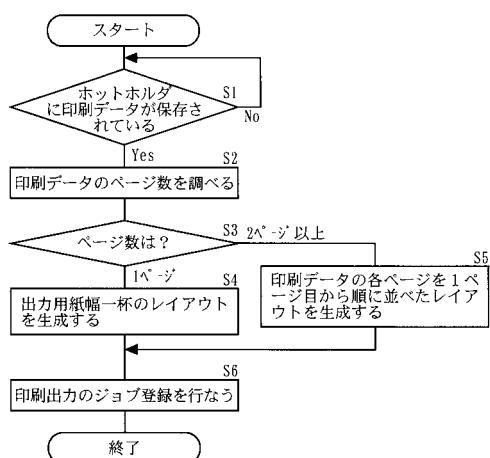
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

